

ALUMNI ASSOCIATION OF U-AIZU.

会津大学同窓会 会報誌 第6号

◆ 同窓生を訪ねて

コミュニティを支える技術と発想
株式会社サイバーエージェント 浦野大輔 氏

◆ データでみる会津大学

会津大の注目度急上昇？
志願者倍率の変化を読み解く

◆ 巻頭特集 座談会

「起業家精神と 研究者精神」

研究を続けたい？ 起業するなら？
そんな本音を語ってもらいました

目次

巻頭言	P2
巻頭特集 座談会	P3~6
大学の近況	P7, 8
同窓生を訪ねて	P9,10
データで見る会津大学 ..	P11
同窓会事業報告	P12
決算予算報告	P13
同窓会からのお願い	P14

世界的な金融危機が底を脱したと伝えられる中で、
日本経済と地域の先行きはまだ見えない。

そんな世相の中、会津大学はそのユニークなシステムで
注目を集める結果となった。

メディアの追い風も受け志願倍率は急回復。
中で少しずつ動く意識ある人のプランが結実する？

しかし猛威を奮う就職氷河期の中で目玉の就職率に懸念、
援軍のベンチャー輩出数も鈍化気味。

ここが正念場。

全国各地に散った同窓生のネットワークを再構築し
同窓会は会津大のブランドを押し上げる一助となれるか。

「起業家精神と研究者精神」

研究を続けたい？ 起業するなら？ そんな本音を語ってもらいました

今後の大学の強みと連続性

前田：まず最初の問題提起として、初期の会津大は最先端の設備を売りにしていて、確かに「ここでしか学べないものがある」というものがありました。

でも今はコンピュータを売りにする大学も多く、さらにハードのコモディティ化が進んでおり、そうなるとやはりソフト面で何を学べてどういう人間になれるのかが問われているのではと思いますがいかがでしょうか？

黒田：やはり外から見てコンピュータ専門、英語というこの2つは大きな売り物です。特に英語はもっとやりようがあるんじゃないか、日本の大学としてはトップクラスの教員、システムが揃っているわけで、問題はまだまだ学生との意識の差があると思っています。

あと大学院も重要なので学部で卒業してしまうのは惜しい。多少個人的な意見だけど昔と比べて組織やカリキュラムが大幅に変わったけど、学部と大学院を分けて考えないようにしたいと思っています。

理学や工学、技術系のトップクラスの大学では学部生は高い割合で進学してマスターに行く。そういう前提で考えるなら、英語教育も含め学部4年と院2年と分けて考えることなく、6年間一貫した内容で効率的なカリキュラムや教員組織を作ることができます。

もちろん教育機関としてのルールがあるので本当に6年制にはできないけれど、そういう何を目指すのかという方向性が共有されていれば学生の意識も変わり大学院進学率も上がると思います。

前田：先生のイメージでは早く社会に出たい人への選択肢としては4年で出て働くのもありということでしょうか？

黒田：そう、本来の単位を4+2セットで6年としたいけど、もちろん4年で出て構わない。

ただ、自分で教えていて何だが、まだ学部と大学院の授業の内容がバラバラでどう繋がるのかも不明確で整理されてい

ないんです。それを今組み立て直しているところで、学部と大学院のカリキュラムにもう少し連続性を持たせ、6年間かけて頂点に立つという理想の体系を作りたいですね。

久田：専門性を考えたときに例えば医学部だと最低6年はかかるわけで、会津大もITの専門家を育成する機関だと思えば4年では終わらないかもしれないし、基礎技術を持った人間が社会経験を重視して早く働くなら4年で卒業してもいいということですね。

矢口：医学部は必ずインターンがありますよね。基礎から応用、そして実践まできちんと終えるにはそれだけかかるというのは分かりやすい流れだと思います。

前田：久田さんは以前に、渡部さんは今現在大学の教員として働いておられますが、学部から大学院、さらに社会への連続性についてどう思いますか？

久田：学部と大学院だけではなく卒業した時点と入社した企業でも恐らく連続性はないですね。例えば4年で卒業した人がいきなり会社に入って仕事ができるわけじゃない、それはマスターでも同じです。

ただそれを大学に求めてしまうと大学の役割が変わってしまう。専門ではなく実践教育になるからです。今の大学の方針は表向きは実践教育としていると思うけど、ある課題を一から自分で組み立ててクリアする能力は大学の基礎的なカリキュラムの中で身につけるべきであって、それを応用できる人材なら入った企業の中でも実践していけるはずですよ。

逆に実践教育を大学でどんどんやってそのまま企業に入れるというやり方もあるかもしれないけど、そうなると専門学校と何が違うんだという話になります。だから実践教育とアカデミックなところを追求するバランスはかなり難しいと思います。

渡部：僕は会津大に入学してから今の立場まで一度も外に出ていないのは周りから見るとあまり良くない印象があるかもしれませんが、自分としては今までやってきたことを中断して外で他の事をやるよりはここで続けたいと思っていました。

黒田：大学院から教員に進む場合はそれほど不連続はないと思います。それに仕事に就くときは企業の側はそのまま役に立つとは思っていないし、大学の教育体系自体もそういうふうにはできていない。

ただ、若い教員を鍛えるという意味ではどこかで修行して来いと言いたいです（笑）。

渡部：それについては学長からも同じアドバイスを頂きました（笑）。

久田：私もこの大学でぬくぬくとしていたら外が分からないから出て行けと言われて私立の大学の教員として3年間勤めましたが、ものすごく忙しい反面かなり勉強になりました。

学長が新年の挨拶で「顧客満足を第一に」と言っていたり、大学組織は表向きは教育と言っている内側では必死で経営している、本当の意味での教育を目指すところとは確実に違う流れが存在していて、そういうことはまずこの大学では体験できなかったことです。

長谷川：学生でも同期に卒業後修士に戻ってきたり修卒で博士に戻ってきたりという人がいますけど、やっぱり目的がきちんとあって戻ってくる人は違うという感じがします。

それぞれの将来像

前田：長谷川さんは卒業後のことをどう考えていますか。会津に残る、またはそのうち戻ってくる可能性は？

長谷川：うーん、甘い見通しかもしれませんが具体的に決めていないんです、何とかなるんじゃないかと（笑）。留学か起業もありかなと思います。

ただ大学発ベンチャーもたくさんあるので大学だけではなく、大学周辺の環境を含めた意味では残りたいですね。起業するなら恐らくここに残ってやると思います。

前田：段々ベンチャーの輩出数も少なくなっているので期待したいですね（笑）。矢口さんは？

矢口：都内や海外の大学院に行く可能性もなくはないけれど、卒業したのが会

津大という事実は変わらないし、ネットワークは持ち続けたいと思っています。そういう意味では会津から離れることはあっても、会津大から離れることはないんじゃないかと思っています。

特に自分は大学の教員ができればいいなと思っていて、ただこれは個人的な希望なので、それができなかった場合も考えて就活をしているんですが。

前田：会津大の教員採用は今どういう仕組みなんですか？

黒田：外からの公募ですが優秀なうちの卒業生は事情が分かっているからぜひ挑戦してほしいと思いますね。今いる若い先生たちはかつて自分がいたところで思入れが強いので頑張ってくれている、そういう意味で期待しています。

起業する際の壁

前田：久田さんは元々アカデミックな方面におられましたか、今の事業内容はそこでやっていた研究から繋がっていますか？

久田：全く違います。ただ自分のやりたいことにどうコンピュータを使うかが研究の対象になるからあまり限定はしていませんね。

前田：長谷川さんと矢口さんはもし起業するとしたら研究の内容を活かしますか？それとも全く関係のないところから？

長谷川：自分は久田さんと意見が一緒で、コンピュータを使って問題解決ができる人がこの大学の言う専門家だと思っているので、自分の今やってる研究にこだわる必要はなくアイデアがあればという感じです。

矢口：起業するとしたらやはりコンピュータサイエンスにはなるし、自分の専門や研究をベースに作ったほうがやりやすいのは確かですね。

自分自身もいろんな研究をしていますが、そういうのってどこかしら繋がっている。だからある程度手広くやってみようというところに集中して、プロダクトが1つできたらまたその次という感じで進んでいくと思います。

久田：そこで例えば矢口さんが起業しま

すって言ったときに、今の状況だと1人でやらないといけないわけですよ。それを他の人が手伝う仕掛けを作ってあげないとだめなんです。

大学にそういう期待をしているところもたくさんあるんですけど、やっぱりベンチャーをやっている人が組織を組んでヘルプする仕組みを作るべきじゃないですか。長谷川くんは実際どうやって起業するの？

長谷川：そうですねえ（笑）。

久田：その答えが出なくて、そのままいいか、就職するかっていうもったいないケースが多分たくさんあると思いますね。

矢口：実際マネジメントは問題ですよ。既存の企業ですら苦勞しているのにこれから始めようという人には相当難しい。

前田：確かに新しくベンチャーをやろうという人が出ても、先にやった人たちと全く同じ苦勞をしないといけないのは無駄だし、学生のうちに起業させたいならそのための仕組みは必須ですね。

コーディネーターも必要だがサポーターは近くにいる

前田：大学の中で持っている技術など、いわゆるシーズを外に持って行くときは具体的にどうなっているんでしょうか。

黒田：今は UBIC で売り込みや外部からの取次ぎを行っています。ただ、自分の研究も含めて本当にそういうのに値する研究やシーズがどのくらいあるのかは疑問で、そんなにすごいというのはなかなか無いでしょう。

矢口：何かプロダクトを生み出そうとした場合に、大学主導だとオープンソースにしてネット上のコミュニティベースの形態にするか、どこかの会社と連携するしかないと思います。会社とやるとなると人脈を活用するか紹介してもらうかですね。

久田：結局今この会社や研究室で何をやっているかをまともに把握している組織がないので、それを何とか作りたいと思っています。

内外から紹介依頼が来たときに、各所の状況を把握していて振り分けてくれるコーディネータの存在は必要不可欠です。



黒田 研一

会津大学 理事
(コンピュータ理工学部長兼務)
コンピュータ工学部門
適応システム学 教授



久田 雅之

株式会社N S T 研究所所長
(第1期生)

渡部：まさに今取り組んでいるものがあった、自分としては最後まで自分たちで作りたいという考えなんです、外の協力を得て一緒に作ろうという意見もあり悩ましいところですよ。

これまで時間をかけて固めてきた理論を外部的の人がきちんと実装できるのか少し不安なんです。今はまだアイデアだけ出してやってる感じなので、デモだけでも自分たちで作りたいと思っています。

久田：うちは研究開発型ベンチャーですが、プロトタイプを作るのに1年位とって、いたら結局2年かかって、使ったお金は何千万じゃ利かない、プロダクトアウトがいかに難しいかがわかると思います。

特に研究しているものを製品化・サービス化するには想像以上の壁があって、そこは同じベンチャーだからこそノウハウをもっている場合もある。だからもっと早くほかのベンチャーと協力すればよかったと思っています。

特に会津大発のベンチャーは IT の中でも分野が違うから、ノウハウとかシェアとか細かいことを気にしない組み方ができるんですよ。

矢口：ベンチャーはすごい技術を持っているのにあまり外から見えないケースが多いですよ。組み方というのは隅田川近辺の町工場みたいな、それぞれに専門性があってうちで中身作って隣に外側頼んで、という感じですね。

黒田：せっかくベンチャーがたくさん出てきているんだから、それらをまとめる組織と大学との接点があるといいよね。

前田：ベンチャー側はそういった必然性みたいなものを感じて動いているので、大学側にもそういう話ができる場があるといいなと思いますね。

大学とベンチャー間の連携

前田：大学とベンチャーの連携についてなんです、まず大学には大雑把に言ってアカデミックな流れとビジネス寄りの流れと2つの出口があると思っています。そして最終的に社会に出ると後者に近い応用や実践力、それらを管理するマネジメント能力が重要になるとしています。

久田さんの話にあったようにそれを大学で教えるべきかどうかという議論はありますが、そこは元々大学は強くないのでベンチャーを含め周りの企業をうまく使って

欲しいです。企業としても大学に求める人材を伝えたいです。

黒田：確かに今ベンチャーでうまくやっている人は経営や人間関係の社会的スキルを得ていて、それは大学では教えてくれないものだと思います。

大学がもっと積極的に大学発ベンチャーを育てていくという観点で見れば、既にあるベンチャー企業が新しい企業の欠けている側面を鍛えてあげるとか、学生にインターンの体験をさせてあげたりそういう仕組みは必要なんですよ。

矢口：大学と企業が一緒になって注力すべき分野の柱ができるという側面もあって、具体的に連携をしていけばうまくいくと思いますね。

もちろん企業間での連携も必要だし大学内部でのポリシーも必要だから、そこはお互いで作りつつ、大学と企業間の架け橋をいくつも架けていくようなイメージでしょうか。

久田：今大学前のベンチャーで何らかの枠組みを作ろうとしています。大学の目の前に事務局があって、そこが大学発ベンチャーをまとめて大学とお互いに何ができるか調整できる窓口になればいいなと。

前田：大学が直接マネジメントを教えなくても、周囲のベンチャーに行けばマネジメントや仕事の進め方は学べる。理想はインターンなどの制度を大学が選択肢として用意して、そういった活動を認めてくれるようになればいいですね。

久田：IT 日新館でインターンシップの話があって結局ミスマッチで立ち消えになったんだけど、やはり本人がそこまでやりたいと思ってなくて。学生が本気で取り組む仕組みづくりが無いとそういう間違いが起こる可能性が高いです。

矢口：やりたい方にももちろん意欲が必要だけど、制度の設計も含めてその間にうまく入ってくれるコーディネータの存在は重要ですね。

有望な学生獲得のために

前田：現役生もそうですが全体としてちょっと変わっているけど優秀な学生が大学に集まってくるのは僕らベンチャーにとっては非常に重要です。なのでこれから入学してくる人にどうアプローチするかを考えたいと思っています。

長谷川：今年倍率が上がったんですよ。

黒田：今年会津大は河合塾が競争倍率が上がる予想をした大学のトップ10の中の、4位なんだけどその他はほとんど看護系の大学。トップ10の中には看護系以外の大学は2つしか入っていません。

長谷川：逆にそのせいで、変で面白くて優秀な学生っていう人とは別の層が興味をもってきちゃってると思うんですよ。安定志向というか。そうすると他の大学と変わらなくなってしまいますよね。

久田：例えば今の1年生の中にどれだけ起業精神のある人がいるんだろうね。

渡部：今の高校生たちをどう惹き付けるかを考えたときに、いきなり起業を目指す人は少数派だと思うんです。

やはり安定志向やブランド志向もあると思うので、学生の質の水準を上げるためにはベンチャーも含めて卒業生がこんなすごい会社に入っていることを大きくアピールした方がいいと思います。

久田：高校への出前講義で大学で実際にこういうことをするんですよという話をしたら、一緒に行った方に「もっと面白おかしくしなきゃ」と怒られた。そのあたりでもギャップはありますね。

黒田：今一番人気があるというか、興味を持たれているのは宇宙関係だよ。

矢口：他にもうちの大学はゲーム系志望者が多いですけど、実際大学の職員にはゲーム業界を知っている人は少ない。でも OB は何人も業界にいるわけだから、そんな人を集めた座談会なんかを開けるといいと思います。

久田：説明会で会社から来ちゃうと悪いことが言えないから、裏話を話せる機会を設けてあげたほうがリアルに考える機会になると思いますね。

黒田：今でもプログラミングコンテストやパソコン甲子園から推薦の学生を取ったりしていて、去年結構良かったので今年は枠の一部を全国対象にしたんだけど、これは比較的倍率が高いし、やりたい人が来るからいいと思ってます。

あとはいかにして県内から東京に逃げてしまっている優秀な学生を留めるか。今年の倍率は 4.8 倍だったんだけど、県内からの比率はほとんど増えていません。

お金を出している県の側からすれば県内を重視したいでしょうし、市民組織とのつながり等を大事にして地元の優秀な人に会津大を目指してもらいたいです。

矢口：少し遠くても行きたいという理由で外からが多くなっているとしたらいいことですね。外からどんどん人が来るというのは会津大の元々の強みだと思います。

黒田：客観的に見て大学のクオリティとしては会津大学は上の方にあると思っているんだけど、高校の進路指導の先生にどれだけ理解してもらえているか、やはり我々の宣伝不足はあるかも知れない。

長谷川：コンピュータがそこまでやりたいわけじゃないけど来てみたらやっぱり合わなかったというようなミスマッチも無くないですね。

前田：それならとにかくコンピュータが好きな人というのを第一条件にすればいいと思いますね。

入ってくる人が今後の会津大を作っていくから、どういう集め方をするかによって今後の会津大が形作られると思うので重要ですよ。

久田：だからこそコンテストなどで早い段階で会津大に引っ張る仕組みを積極的に作ったり、会津大の魅力をアピールすると思います。賞金なんかでお金が絡む場合はベンチャーがうまく前に立つとかいいやり方はあるでしょう。

前田：同窓会の枠組みもぜひ活用して頂きつつ、大学全体でも意見交換しながらいい方向にもっていければと思います。

今同窓生は3000人くらいが各地にいるはずなので、今日出た内容は同窓会会報としても公開・共有し、さらに会った同窓生には具体的に話題を振ってみることで、ちょっとずつ大学のことを考える機会ができればいいと思っています。

本日はどうもありがとうございました。



渡部 有隆

会津大学コンピュータ理工学部
情報システム学部門
データベースシステム学講座
准教授
(第6期生)



長谷川 慎

会津大学大学院 博士後期課程
コンピュータ・情報システム学専攻
生体情報学講座所属
(第8期生)



矢口 勇一

会津大学大学院 博士後期課程
コンピュータ・情報システム学専攻
画像処理学講座所属
(第10期生)

前田 諭志

株式会社デザイニウム
代表取締役
(第6期生・同窓会理事兼司会者)

大学の近況



同窓生が後輩に向けて英語で講演

会津大学グローバルシチズン・シンポジウム開催

2009年12月4日（金）に会津大学グローバルシチズン・シンポジウムの第3回が開催され、会津大学の同窓生である久田雅之さんと菅原裕亮さんが登壇されました。

会津大学で博士を取り他大学で教鞭を取った後会津に戻りベンチャーとしてNSTラボを起業した久田氏と、会津大学を卒業しながら金融・投資という異業種分野で活躍する菅原氏が、世界を相手にするビジネスの構築の仕方、さらにそこで不可欠な英語について自身の経験を交えながら英語でプレゼンテーションを行いました。

久田氏はクラウドのような無制限のインフラが自由に使える今だからこそ、学生でも大きなビジネスチャンスがあること、また菅原氏は会津大学で得たITの基本リテラシとその応用力は金融のような異業種分野でも非常に有効であるということを熱く語り、130名を超す参加者が2人の話に聞き入っていました。

グローバルシチズン・シンポジウムは全5回の開催で、2人以外にも下記の内容で学生のモチベーションが上がりそうな魅力的な講演者を招いて開催されました。

【第1回】10月16日（金）
枝澤 秀雄氏（株式会社DGコミュニケーションズ 代表取締役社長）
田中 実氏（株式会社カカコム 代表取締役社長）

【第2回】11月27日（金）
井原 徹氏（日産自動車株式会社 人事部採用・異動グループ部長）
立石 博紀氏（株式会社エクセルインターナショナル 国際研修グループ主幹講師）

【第4回】1月22日（金）
仲野 友子氏（国際教育交換協議会）
藤倉 遊喜夫氏（日本学生支援機構）

【第5回】2月4日（木）
花岡 和彦代氏（株式会社富士通SSL 代表取締役社長）
石黒 努氏（オリンパスメディカルシステムズ株式会社 開発企画本部）

なお菅原氏は同窓会の東京支部交流会で母校とのつながりを作りたいと話したことから今回の講演につながりました。

同窓会では今後も積極的に同窓生と大学の橋渡しを行っていききたいと思います。



起業家育成のための3ヶ年事業が終了

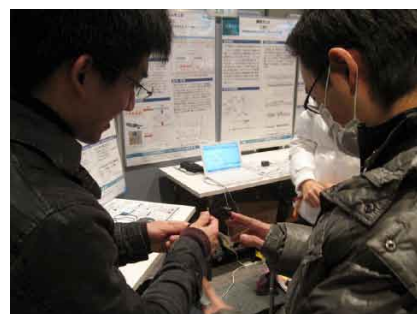
会津IT日新館シンポジウム開催

文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」として平成19年度に採択されて以来、会津IT日新館は基本コースと応用コース（ベンチャー体験工房）、さらにインターンシップ等を組み合わせた実践的な授業として活動してきました。

最終年度である今年の12月にこれまで取り組んだ成果を発表するシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは講演と並行して工房ごとに活動の成果をパネルと実機で展示・説明するポスターセッション、実際の成果物を体験できるプチ工房体験で構成されており、学生や市民を含む多くの参加者が会場であるUBICを訪れて説明に聞き入っていました。

工房1 機能安全システム
工房2 ユビキタス健康支援システム
工房3 センサネットワーク
工房4 モバイルソリューション
工房5 カム運動曲線作成システム
工房6 メッセージングネットワーク
工房7 安全なWebを実現するソフトウェアサービス
工房8 会津活性化プロジェクト
工房9 セキュアFlashアプリ開発
工房10 ユビキタスデバイス活用ソフトの開発

また、これらの成果のうちの一つは後日会津若松市の「会津産IT技術」としても認定を受けました。会津IT日新館は現代GPの事業としては終了となりますが、翌年度以降も何らかの形で継続することが検討されています。



昨年度に引き続き開講

大学院集中講座

会津大学大学院集中講義が平成21年度は2回開催されました。昨年に引き続き企業や国内外の大学から第一級の講師陣を招き、より実践的で国際的な授業を開講しています。卒業生の方でもお時間の都合がつく方はぜひ受講されてはいかがでしょうか。

第4回 Intensive Courses 2009年9月28日（月）～9月30日（水）

- ・クラウドコンピューティング・医療や生物情報学におけるアプリケーションエンジン Subhash Bhalla 教授
- ・集中回路に対するコンピュータ支援設計(CAD)入門 齋藤 寛 准教授
- ・コンピュータグラフィックにおける3Dモデリングとレンダリング入門 Pierre-Alain Fayolle 准教授
- ・意味情報検索 Vitaly Klyuev 上級准教授

第5回 ソフトウェア開発プロセスウィーク 2010年3月2日（火）～3月5日（金）

- ・パッケージ活用型の開発コース 小山 宗司氏・岩瀬 次郎氏
- IT産業の技術とビジネス動向、パッケージ活用型プロセス -
- ・反復型開発プロセスコース 岡本 修治氏・大澤 浩二氏
- 先進モデリング手法、RUPとScrumの特徴 -
- ・品質管理のディシプリンコース 秋山 義博氏・岩瀬 次郎氏
- PSPSM、TSPSM エグゼクティブ・ストラテジーセミナー -



今年度のホットなトピックは？

平成21年度できごと一覧

04.02 平成21年度入学式
04.03 会津大学先端情報科学研究センター(CAIST)開所式
04.22 会津信用金庫連携協力協定締結
05.21 会津大学チーム「Watch.c」ACM/ICPC世界大会で健闘
05.13 平成21年度出前講義がスタート
05.26 ACM/ICPC出場チーム、福島県知事に成績報告
06.08 サンクトペテルブルク工科大学と交流協定を締結
06.10 角山学長、ロシア科学アカデミー研究者と意見交換
06.13 平成21年度公開講座スタート「楽しく学ぼう！プログラミング入門」
07.03 ACM/ICPC国内予選、大学別2位でアジア地区予選へ
07.07 クールアース・デー2009 in 会津大学を開催
07.09 会津大学産学連携フォーラム「知的財産セミナー」開催
07.09 京都外国語大学との教員交流
07.22 会津大学で日食観察会

08.06 会津大学・西会津町コラボ企画「ベジメルバーガー」販売決定
09.11 CAIST研究成果説明会
10.06 第1回サイエンス・カフェ開催
10.13 会津大学学園祭「蒼翔祭」開催
09.17 大学院1年増田さんがFAN2009発表賞受賞
10.16 第1回会津大学グローバルシチズン・シンポジウム開催
11.14 トーマス・オア教授がIEEE専門部会長に就任
11.24 台湾の2大学と交流協定等を締結
11.27 第2回会津大学グローバルシチズン・シンポジウム開催
12.04 第3回会津大学グローバルシチズン・シンポジウム開催
12.16 会津IT日新館シンポジウム開催
01.22 会津IT日新館工房5活動成果が会津産IT技術に認定
01.22 第4回会津大学グローバルシチズン・シンポジウム開催
02.03-05 月データ較正・検証ワークショップ(Cal Val Workshop)開催

02.05 平成22年大学院入学者選抜試験合格発表
02.10 第5回会津大学グローバルシチズン・シンポジウム開催
02.16 平成21年度卒業論文発表会
02.19 中学生が会津大学の特色を体験
02.27 文科省GP獲得額上位100校にランクイン
03.09 平成22年度一般入試合格者発表
03.10 米国テイラー大学と大学間交流協定を締結
03.16 博士学位論文発表会
03.23 平成21年度卒業式
03.27-29 公開講座「高校生のためのアルゴリズムとプログラミング」開催

※これらの行事一覧は会津大学オフィシャルサイトのイベント情報より引用・抜粋したものです。

データで見る会津大学

学部卒業者の進路別推移

進路/年度	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
民間	112	113	123	135	135	110	132	132	136	137	158
教員	3	1	3	1	4	7	5	7	10	2	4
公務員	3	0	9	3	0	3	3	1	0	0	3
大学院	44	41	67	52	67	69	56	45	44	50	54
他の大学院	4	6	2	3	4	4	6	10	9	4	6
海外大学院	0	0	0	0	1	0	0	5	0	0	1
研究生	3	3	0	1	3						
起業	0	0	2	1	0	1	0	1	0	0	0
家業	2	0	1	2	1	1	1	0	0	0	1
その他	0	0	0	2	2	15	12	5	3	0	3
合計	171	164	207	200	217	210	215	206	202	193	230

大学院卒業者の進路別推移

進路/年度	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
民間	39	34	40	43	46	47	60	60	5	45	43
教員	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	1
公務員	1	1	1	0	2	0	0	0	5	0	0
大学院	10	6	7	8	9	9	8	4	0	6	5
他の大学院	1	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0
海外大学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研究生	1	0	0	0	0						
起業	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
家業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
その他	0	0	0	2	1	4	3	1	3	0	2
合計	52	42	49	53	58	60	75	68	13	52	51

県内就職率の問題は改善か

昨年からの継続した指標として、会津大学の学部・大学院卒業生の県内就職率を見てみます。2009年度の最新のデータは現段階でまだ出ていないため2008年度のものになりますが、大きく上昇しています。

2007年度に約9%だったものが、約2倍の16%まで伸びています。2008年度は世界的な金融危機が起こった年ですが、年度の後半だったためその時点では就職活動を終えていた学生がほとんどと考えられ、さほど影響を与えるとは思えません。

さらにこの年の福島県内の新規求人倍率は0.96倍と大幅にダウンしています（これも年度の平均値と思われるが）。地元に残る学生が少ないといわれる会津大学にとっては今後この値がどのように変化するのかが注目されるところです。

志願倍率は追い風、さらなるイメージアップを

これまで会津大学の志願倍率は一時3倍を割るところまで落ち込みましたが、2009年は全国平均近くまで回復し今年度は4.8倍と、国公立の全国平均に並びました。

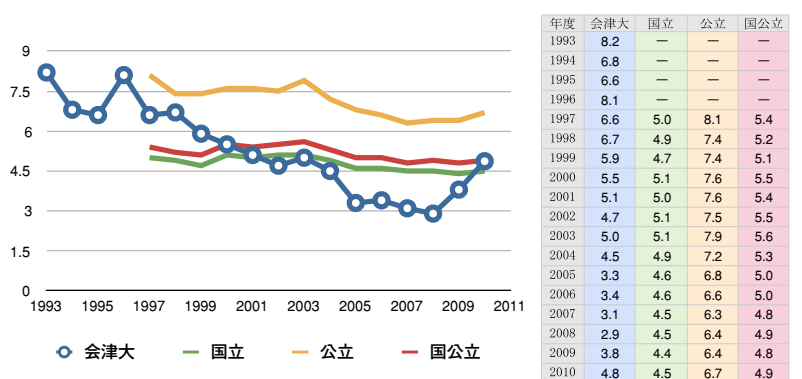
それにはまだ世の中が世界的な不況の波から脱しきれておらず先行き不安な状態にあることが、逆にユニークで特色ある会津大学を目立たせていると言えます。ITバブルは終わったとは言え、インフラとしてのITが無くなることはなく、モバイルやSNSのような未だ好況の分野も少なからずあります。さらにはコンピュータに加えて英語による授業ということで世界に開けているという印象があるのではないのでしょうか。

それを裏付けるように予備校の調査で倍率が急上昇するであろう大学の上位にランキングされた、雑誌やテレビの取材が入ったという嬉しいニュースもありました。

そのような印象で持って見られることはとても望ましいことですが、ただ、今はこの勢いに乗り世の中の動きに関係なく価値の認められる大学を目指すべきでしょう。

認知度を高めるため、さらにITに強い大学としてのイメージを高めるため、座談会の中でも議論されたような外部のイベントをもっと有効に使う、さらに同窓生としてのアピールとして、OBが会津大学で学んだことを活かしてこんな業界にいる、こんな面白い仕事をしているということをきちんと伝えていく必要があります。まずはそのためのきっかけづくりや情報集めから、と考えます。

入試志願倍率における国公立大との比較と推移



同窓会事業報告

総会報告

10月10日（土）、平成21年度会津大学同窓会総会、並びに会津支部交流会が開催されました。総会は角山学長挨拶に始まり、上野会長挨拶に続いて各種議案の承認、収支報告など恙無く執り行われました。

平成21年度事業報告

- 1.ウェブサイト**：見せ方とコンテンツの強化を軸に、ブログベースのシステムに入れ替え、コンテンツも移してリニューアルしました。
- 2.同窓会会報誌**：読んでもらえる会報をというコンセプトに基づき昨年リニューアルした大枠は変えずにクオリティを維持した刊行を行いました。今後は実際の事業計画と結び付けて行きます。
- 3.交流会**：スケジュールの変更があったものの、昨年の反省から4支部全てで交流会を開催しました。
- 4.就職相談会**：総会開催までの時間を使い学生の就活支援として、同窓会会員による就職相談会を行いました。大手企業からベンチャー、銀行、官公庁まで様々な職種がそろったことで何十分も真剣に就職についてOBに相談する学生の姿が見られました。

平成21年度事業計画

※平成22年度事業計画は4月現在審議中です

理念「出会いから感動を」

我々の第二の故郷である会津での出会いをきっかけとして、価値ある人のつながり、新たな出会いを創造する。

目標「価値創造」

同窓生、および学生時代の関係者の交流、親睦を活性化し、お互いの利益となるための様々な機会を創設し、「価値創造」が出来る同窓会を運営する。

活動指針

「一、つながり」

同窓生、在校生、教職員をつなぐ同窓会
「二、継承－先輩から後輩へ－」
建学の精神を次代へ伝える同窓会

「三、若い力」

大学と共に成長を続ける同窓会

○事業内容

◆会報誌の発行（平成16年度より継続）
会津大学や同窓生の近況を伝えることを

目的として、会報誌を発行する。

（平成16年度より、年一回発行）

◆会津大学同窓会サイトの運営
（平成16年度より継続）

同窓会組織、ならびに同窓会事業に対する理解を深めてもらい、様々な活動への参加を促進する為に、同窓生をターゲットとしたサイトの運営を行う。

また、今後は、同サイト上に同窓会理事会の活動状況（理事会議事録など）も公開していく。（平成16年度事業として開設済み、<http://www.u-aizuob.info/>）

◆同窓生懇親会・交流会の開催（平成18年度より継続）

同窓生の再開の場を交流会により提供する。総会と合わせた懇親会の他に、各支部単位での交流会など遠く離れた同窓生も気軽に参加できる場の実現を目指す。（平成19年度、各支部にて開催。）

◆会津大学事業活動の支援

平成18年、独立行政法人として新たな道を歩みだした母校会津大学の様々な活動に対する支援・協力。

◆理事会・総会の定期開催

理事会を2ヶ月に一度、場所を会津大学・東京を交互に定期開催する。理事会では、会運営全般に関する議論を行う。

総会は10月に開催される会津大学学園祭に併せて開催をし、主に、計画・予算に関しての審議を行う。また、総会同日に後援会（父兄会）と合同で懇親会を開催する。

◆支部会の充実

支部会の会員への連絡機能を拡充することから、各支部任意に連絡員を配置する。また、支部独自の運営を促し、同窓会の活性化を図る。





平成 20 年度同窓会収支決算報告書

【収入の部】 (単位：円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
前期繰越金	5,427,452	5,427,452	平成19年度より繰越
会費	2,570,000	2,570,000	16期生257名×10,000円
雑収入	10,000	9,820	
合 計	8,007,452	8,007,272	

【支出の部】 (単位：円)

科 目	予算額	収入済額	摘 要
事業費	500,000	500,000	会報・HP委託費
交流会補助費	600,000	133,800	各支部交流会
雑費	70,000	62,895	事務用品、振込手数料、理事会会場使用料
管理費	20,000	17,430	サーバー使用料・ドメイン維持費
旅費	700,000	678,940	出席役員旅費等
郵送料	170,000	119,920	総会通知等
慶弔費	10,000	0	
予備費	250,000	15,750	チラシ印刷代
合 計	2,320,000	1,528,735	

【収支予算額】

収入総額 8,007,272 円
 支出総額 1,528,735 円
 繰越金 6,478,537 円



平成 21 年度同窓会 収支予算

【収入の部】 (単位：円)

科 目	本年度予算	前年度予算	増減	摘 要
前期繰越金	6,478,537	5,427,452	1,051,085	平成20年度より繰越
会費	2,620,000	2,570,000	50,000	17期生262名×10,000円
雑収入	10,000	10,000	0	
合 計	9,108,537	8,007,452	1,101,085	

【支出の部】 (単位：円)

科 目	本年度予算	前年度予算	決算見込額	摘 要
事業費	600,000	500,000	100,000	会報・HP委託費
交流会費	600,000	600,000	0	
雑費	60,000	70,000	-10,000	事務用品、振込手数料
会議費	100,000	0	100,000	理事会会場使用料等
管理費	20,000	20,000	0	サーバー使用料・ドメイン維持費
旅費	700,000	700,000	0	理事会出席役員旅費等
郵送料	170,000	170,000	0	総会通知等
慶弔費	10,000	10,000	0	
予備費	150,000	250,000	-100,000	
合 計	2,410,000	2,320,000	90,000	

【収支予算額】

収入予算額 9,108,537 円
 支出予算額 2,410,000 円
 繰越予算額 6,698,537 円

同窓会をきっかけに大学ともう一度関わってみませんか？

・同窓会会員として連絡先の登録をお願いします

来年度から「会津大学の今」を伝えるメールマガジンが、
 会員の皆様に送られます。
 不定期発信になると思います。大学の今をより知ることができます。
 大学卒業時に登録を行っていない方や住所などに変更があった方は
 登録をお願いします。

【登録方法】

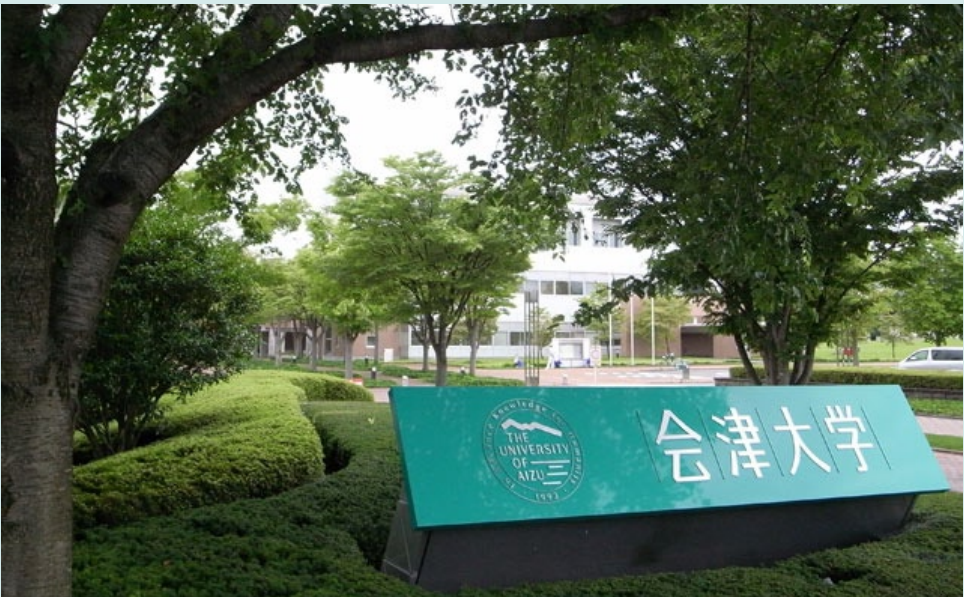
- ①<http://www.u-aizuob.info/> にアクセスするか、または
 検索エンジンで『会津大学同窓会』で検索してください
- ②会員情報の登録や更新の「登録 / 更新するには」を選択します
- ③入力フォームよりご登録下さい

・大学や同窓会への要望をお寄せ下さい

- ・巻頭特集の座談会や OB インタビューに参加したい
- ・OB/OG として、大学にリクルーティングに行きたい
- ・大学の研究内容に興味がある・共同開発がしたい

【上記に関するお問い合わせ先】

広報担当 前田 maeda@u-aizuob.info まで



【発行元・連絡先】

会津大学同窓会（会津大学学生課） TEL: 0242 - 37 - 2600